

愛知県立大学における保健師養成課程の大学院化に関するニーズ調査

鬼塚 知里, 柳澤 理子, 古田加代子, 杉山 希美

Need assessment of postgraduate education program for public health nurses at Aichi Prefectural University

Chisato Onizuka, Satoko Yanagisawa, Kayoko Furuta, Kimi Sugiyama

【目的】 本学における保健師教育の大学院化のニーズを検討することを目的に本調査を実施した。

【方法】 調査協力が得られた保健所・保健センターに所属する統括的立場にある保健師, 愛知県立大学看護学部生, 東海3県看護系短期大学及び専門学校学生に自記式質問紙調査を行った。

【結果】 過半数の保健師は大学院保健師養成課程の設置について賛成であり, 調査・研究や政策提言できる保健師の育成を望んでいた。本学部生の大学院保健師養成課程の希望者は2割で, 「実践的な知識や技術」の獲得, 「高度な知識・技術」の獲得, 「コミュニケーション」能力への期待が高かった。看護系短期大学及び専門学校学生も本学部生と同じ傾向を示した。

【考察】 大学院における保健師教育については, 就職を受け入れる行政保健師も必要性を認め, 受験者となる学生にも進学ニーズがあることから今後, 本学部で公衆衛生看護学コースの大学院化を進める意義があると考えられる。

キーワード: 保健師, 大学院, 進学ニーズ, 調査研究

I. はじめに

近年, 保健師活動の状況は変化し, 健康課題の複雑化や新興再興感染症の脅威, 在宅看護への期待など社会変化に伴い, 保健・医療・福祉の連携や高度な医療技術をもつ看護職の養成の需要が高まっている(村嶋, 2010)(佐伯, 2010)。この社会変化と需要に対応するため, 看護系大学は1986年から急速に増加し, 平成に入り看護師・保健師養成課程は9校となり(日本看護協会出版会, 1991), 2009年には182校となった(日本看護協会出版会, 2009)。2015年においては看護師養成大学は250校, そのうち231校が保健師・看護師統合教育による4年生教育であり(日本看護協会出版会, 2015), 保健師養成大学の数は増加の一途をたどっている。

高度看護専門職養成のための大学教育が充実した一方で, 保健師学生の増加による実習施設不足, 規定の時間数では学生の保健師専門分野の知識・技術低下が顕在化

し, 教育側と臨地側から問題視されるようになった。このような現状を踏まえ, 2009年に保健師助産師看護師法が改正され, 保健師国家試験受験要件の教育年限が1年以上になり, 加えて2011年の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を受け, 保健師教育総単位数が28単位以上に増加した。また, 「大学における看護系人材養成の在り方に関する最終報告書」を受けて, 大学で保健師教育を選択制にすることが可能となった。この改正により多くの看護系大学では選択制もしくは大学院によるカリキュラムとする検討に入り, 保健師の核となる教育の工夫や改革を行ってきた(江藤, 草間, 2010)(岸, 吉岡, 野尻, 2010)。

本学では平成24年から保健師養成課程を18名の選択コースとした。平成28年3月に初めての公衆衛生看護学コース選択課程の修了生を輩出するにあたり, この制度に対する公衆衛生看護学コース選択制評価プロジェクトを発足させ, 2015年に選択課程の評価を実施した結果,

3つの課題が挙げられた。1つめは、公衆衛生看護学選択コースの学生は、卒業までに看護師コースの学生より11単位多い137単位が卒業要件のため、過半数の学生が、公衆衛生看護学コースのカリキュラムが過密であると回答していた。2つめは、保健師カリキュラム上の課題で、講義、演習、実習が時間的に乖離していることが挙げられた。具体的には3年生前期で公衆衛生看護科目を受講し、4年生前期に公衆衛生看護学実習を実施する。その間に他の看護学領域の臨地実習が入るため、公衆衛生看護学選択コース学生は公衆衛生看護科目に集中することが難しく、学習効果が上がりにくいことである。3つめは、看護技術到達度を卒業生全体と比較すると、公衆衛生看護学コースの学生は臨床看護学技術の到達度を低く評価する者が多い傾向にあった。これは看護生活支援演習、看護学統合実習などで、看護師としての知識・技術を深める機会が、看護師コースの学生と比べて少ないことが一因にある。すなわち、公衆衛生看護学コースの講義を受講しながらも、看護師就職を考える学生にとっては、看護師としての基礎力の獲得に不利なカリキュラムとなっている。

以上の課題から、公衆衛生看護学コース選択制評価プロジェクトにおいて、学士課程における保健師教育の選択制度を廃止し、保健師養成課程の大学院化が提案された。これを受けて本学部では、保健師養成課程の大学院化を検討するために、ニーズを調査することにした。保健師、愛知県立大学看護学部生、東海3県看護系短期大学及び専門学校学生の学生を対象に実施したニーズ調査の結果を報告する。

II. 調査方法

1. 調査時期

調査は、平成27年12月から平成28年1月に実施した。

2. 調査対象者

調査対象者は愛知県内の保健所・保健センター及び愛知県健康福祉部に所属する統括的立場の保健師、愛知県立大学看護学部の1年生から4年生、東海3県看護系短期大学及び専門学校学生である。

3. 調査方法

保健師については、郵送にて施設長等を通して調査を依頼した。統括的立場にある保健師1名に質問紙を手渡

してもらい、郵送にて回収した。本学部生については、教員が調査の趣旨を説明して質問紙を配布し、回収箱にて回収した。また、看護系短期大学及び専門学校学生については、郵送にて学長、学校長を通して調査を依頼し、学校ごとに調査対象学年を割り当てて学生に配布してもらい、郵送にて回収した。

4. 調査内容

保健師教育の大学院化に関する先行研究・報告書（小松他，2005）（古田他，2005）を参考に、統括的立場にある保健師と看護学生にそれぞれ調査用紙を作成した。統括的立場にある保健師に対しては、属性（職位、年齢、経験年数）及び「保健師教育を大学院で行うことに対する考え」「保健師の採用についての考え」「大学院修了者に期待すること」について回答を求めた。本学部生と看護系短期大学及び専門学校学生に対しては、学年の他に「保健師国家試験受験資格取得希望の有無」「大学院保健師養成課程の進学希望の有無」「大学院保健師養成課程へ進学するあたり気になること」「大学院保健師養成課程に対する期待」について回答を求めた。

5. 分析方法

保健師、本学部生、看護系短期大学及び専門学校学生それぞれについて回答を集計した。属性はそれぞれの項目ごとにパーセンテージ（%）を算出した。統括的立場の保健師の調査項目である「大学院修了者に期待すること」及び看護学生の調査項目である「大学院保健師養成課程に対し期待すること」「大学院保健師養成課程に進学にあたり気になること」については、第1位を3点、第2位を2点、第3位を1点と重み付けして集計した。

6. 倫理的配慮

調査依頼文に、調査目的、方法、調査により得られた情報を目的外に使用しないこと、施設名や個人が特定されないように配慮すること、調査への参加は自由意志であり、無記名で行うこと、調査に協力しないことによる不利益は生じないことを表記し、調査票の回答をもって調査に同意を得たものとした。

III. 結 果

1. 行政保健師

各施設の保健師56名より回答が得られた。回答者

の職位は統括保健師11%， 所長・部局長・次長・課長25%， 課長補佐・係長・主任・係員64%であった。表1は回答者の年齢と経験年数を示す。年齢は50歳代が66%， 経験年数は30年以上が52%と最も多かった。保健師教育を大学院で行うことに対しては、賛成が62%であった（図1）。大学院修了者に期待することは「地域課題に対して政策を提言する能力」「調査・研究能力」などが挙げられた（図2）。図3には保健師の採用に関する考えを示した。「学歴を考慮しない」とする者が最も多かった（69%）が、大学院修了生を優先して採用したいとする者が20%あった。図4は職位別にみた大学院修了保健師の採用に関する考えを示した。大学院での保健師教育に賛成もしくはほぼ賛成と回答した者は、統括保健師67%が、所長・部局長・次長・課長79%， 課長補佐・係長・主任・係員56%であり、上位職の方が賛成の割合が高かった。

る考えを示した。「学歴を考慮しない」とする者が最も多かった（69%）が、大学院修了生を優先して採用したいとする者が20%あった。図4は職位別にみた大学院修了保健師の採用に関する考えを示した。大学院での保健師教育に賛成もしくはほぼ賛成と回答した者は、統括保健師67%が、所長・部局長・次長・課長79%， 課長補佐・係長・主任・係員56%であり、上位職の方が賛成の割合が高かった。

表 1. 職位別にみた回答者の背景

項目	カテゴリー	実数 (%)					
		統括保健師 (n=6)	所長・部局長・次長・課長 (n=14)	課長補佐・係長・主任・係員 (n=36)	全体 (n=56)		
年齢	30歳代以下	0 (0)	0 (0)	1 (2)	1 (2)		
	40歳代以下	0 (0)	0 (0)	14 (39)	14 (25)		
	50歳代以下	5 (83)	12 (86)	20 (56)	37 (66)		
	60歳代以下	1 (17)	2 (14)	0 (0)	3 (5)		
	無回答	0 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (2)		
経験年数	10年未満	0 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (2)		
	10～19年	0 (0)	0 (0)	4 (11)	4 (7)		
	20～29年	1 (17)	1 (7)	19 (53)	21 (38)		
	30年以上	5 (83)	13 (93)	11 (31)	29 (52)		
	無回答	0 (0)	0 (0)	1 (3)	1 (1)		

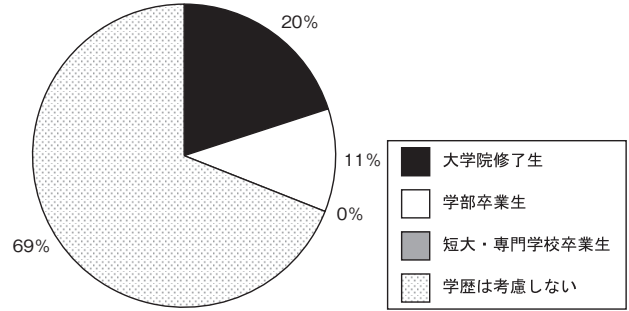
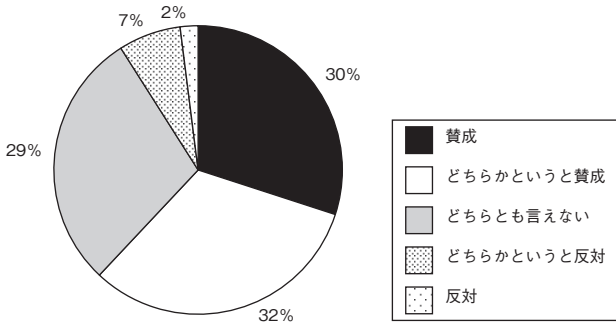


図 1. 保健師教育を大学院で行うことに関する考え

図 3. 保健師の採用についての考え

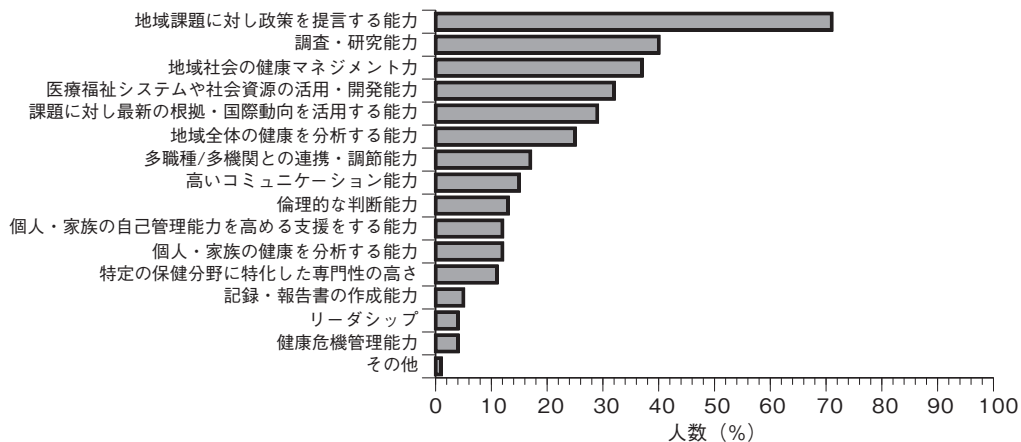


図 2. 大学院修了者に期待すること

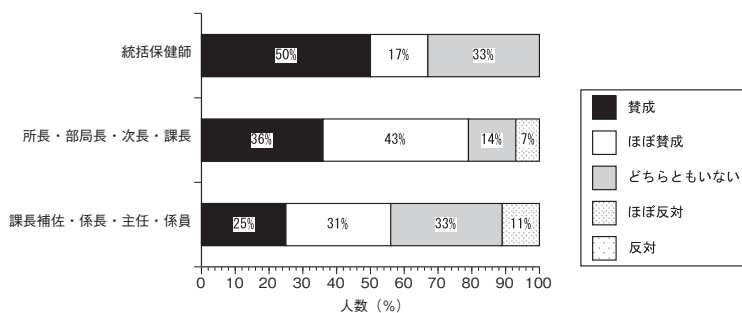


図4. 職位別に見た大学院修了保健師の採用に関する考え

2. 愛知県立大学看護学部生

本学部生218名より回答が得られた。回答者の学年は1年生32%，2年生19%，3年生35%，4年生14%で、回答者の半数を低学年が占めた。表2は、保健師国家試験受験資格取得希望者を示し、希望する者は42.7%で、希望しない者は22.5%だった。表3は、保健師養成課程大学院の進学希望者数を示し、「ぜひ進学したい」と「進

学したい」を合わせた進学希望者は18.8%だった。このうち、「ぜひ進学したい」と回答したのは14名であった。大学院進学するにあたり気になることを図5に示した。最も多かった回答は「費用」で、つぎに「学習量」、「就職」が挙げられた。図6は大学院保健師養成課程に対する期待を示したもので、「実践的な知識・技術」の獲得が最も多く、つぎに「高度な知識・技術」の獲得、「コミュ

表2. 保健師国家試験受験資格取得の希望者数

項目	実数 (%)			
	本学部生 (n=218)		短期大学・専門学校学生 (n=3,659)	
希望する	93	(42.7)	708	(19.3)
希望しない	49	(22.5)	1174	(32.1)
わからない	76	(34.9)	1775	(48.5)
無回答	0	(0.0)	2	(0.1)

表3. 保健師養成課程大学院の進学希望者数

項目	実数 (%)			
	本学部生 (n=218)		短期大学・専門学校学生 (n=3,659)	
ぜひ進学したい	14	(6.4)	229	(6.3)
進学したい	27	(12.4)	792	(21.6)
どちらともいえない	67	(30.7)	1,448	(39.6)
進学したくない	63	(28.9)	552	(15.1)
全く進学したくない	29	(13.3)	623	(17.0)
保健師コース選択している	18	(8.3)	0	(0.0)
無回答	0	(0.0)	15	(0.4)

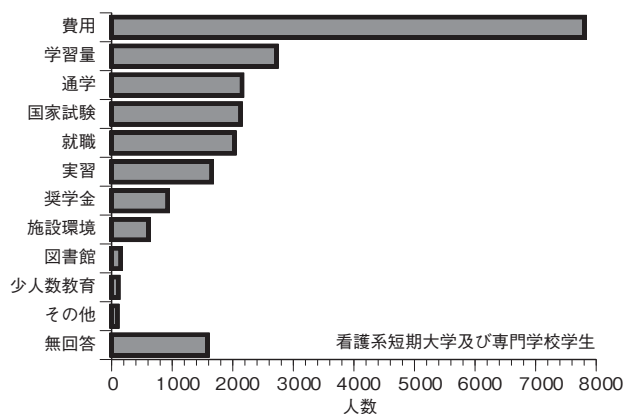
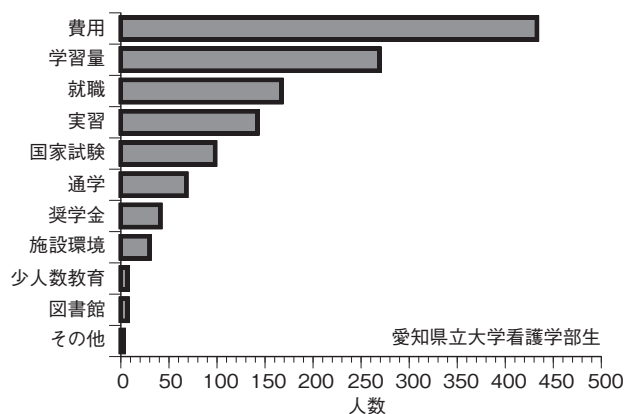


図5. 大学院保健師養成課程に進学するにあたり気になること

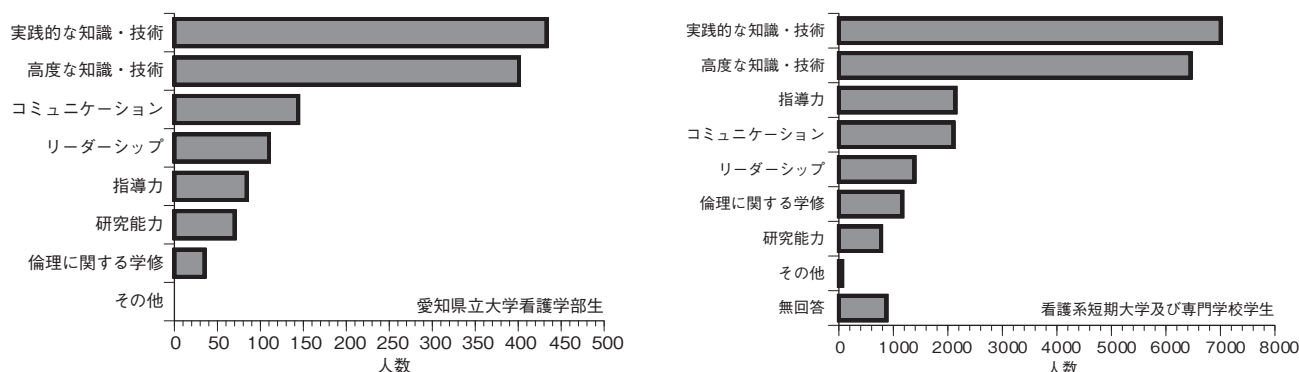


図 6. 大学院保健師養成課程に対する期待

「コミュニケーション」や「リーダーシップ」能力という回答が多かった。

3. 看護系短期大学及び専門学校学生

看護系短期大学及び専門学校の学生3,659名より回答が得られた。回答者の学年は、1年生39%、2年生32%、3年生28%であった。保健師国家試験受験資格取得を希望する者は19.3%、希望しない者は32.1%、わからないと回答した者は48.5%だった(表2)。27.9%の学生が大学院保健師養成課程への進学を希望し、32.1%の学生は進学を希望しなかった(表3)。大学院保健師養成課程に進学するにあたり気になること(図5)で、最も多い回答は「費用」、つぎに「学習量」、「通学」が挙げられた。大学院保健師養成課程に対する期待(図6)で、最も多かった回答は、「実践的な知識・技術」の獲得、つぎに「高度な知識・技術」、学生や他の看護職に対する「指導力」の順に多かった。

IV. 考 察

1. 行政保健師の回答にみる大学院課程修了生受け入れ側のニーズ

行政において統括的立場にある保健師は保健師教育の大学院化について、「賛成」あるいは「どちらか」と賛成が62%を占め全体として大学院化に肯定的であった。特に、統括保健師の67%が受け入れに賛成しており、保健師業務の全体を見渡したり保健師を指導したりする立場の保健師ほど、保健師教育の大学院化の必要性を認識していると思われる。保健師採用にあたっては、「大学院修了生を優先して採用する」という回答が

20%あり、就職先が十分見込まれることがわかった。

大学院修了者に期待する内容をみると、「地域課題に対し政策を提言する能力」が最も多く、次いで「調査・研究能力」、「地域社会の健康マネジメント能力」、「医療福祉システムや社会資源の活用・開発能力」、「課題に対し最新の根拠・国際的動向を活用する能力」、「地域全体の健康を分析する能力」などが上位に挙がっていた。

以上のことから、行政保健師が大学院における保健師教育に求めている能力は、単なる活動の手技や手順ではなく、地域やそこで生活する住民の実態を把握し、そのニーズに基づいた活動を状況に応じて計画、実践、評価し、次へ発展させる応用力であることがわかった。

2. 愛知県立大学看護学部生、東海3県看護系短期大学及び専門学校学生にみる大学院保健師養成課程への進学ニーズ

本学部生では、大学院進学希望者は、「ぜひ進学したい」と強く進学を希望する学生が6.4%いることがわかった。この中には既に公衆衛生看護学コースの選抜を終えた学生も含まれていた。今回は県内の看護学部大学生に対する調査は実施していないが、本学が大学院課程を設置した場合、本学部生と同様に他大学の卒業生の中にも本大学院で保健師資格取得を目指したいと考える者がいると推測できる。

看護系短期大学及び専門学校学生では、保健師資格取得希望者が2割ほど存在し、大学院に「ぜひ進学したい」、「進学したい」と回答する者をあわせると1000人を超える希望者がいた。また、「ぜひ進学したい」との回答に焦点をあてると、200人を超える学生が進学を強く希望していることがわかった。しかし、看護系短期大学及び

専門学校学生が本学に進学する場合、5年間の実務経験が必要とされるため、看護師として働いている間に保健師資格取得を希望する者がかなり減少する可能性が考えられる。一方、看護系短期大学及び専門学校学生にとっては、大学への再入学を経ずに大学院博士前期課程に進学できることは魅力の一つとなるため、一定の希望者は確保できると考えられる。

大学院進学にあたって気になることでは、本学部生、看護系短期大学及び専門学校学生は、共に「費用」に關することが最も多く、次いで「学習量」であった。病院と異なり、行政では大学院生に対する奨学金制度を設けているところはほとんどないため、授業料の支払い困難による進学の差し控えが生じる可能性があり、外部の奨学金や研究費の獲得について支援の必要があると考えられる。

大学院保健師養成課程に対する期待では、本学部生、看護系短期大学及び専門学校学生に最も多かったのは「実践的な知識・技術」であり、次いで「高度な知識・技術」であった。保健師養成課程が大学院で開講された場合は、看護師資格を取得した者が入学することになるので、実習では実際に住民に対してケアや保健指導を実施する範囲が拡大することから、学士課程に比べて「実践的な知識・技術」を習得できるであろう。また、学部での公衆衛生看護学コースから大学院課程に移行することによって、ある程度自由なカリキュラムの編成ができる。公衆衛生看護学コースでは十分に学習できない応用疫学、継続訪問事例や公衆衛生看護管理などをカリキュラムに組み込むことが可能になるので、「高度な知識・技術」を獲得したいという学生のニーズに十分対応できると考えられる。

V. まとめ

現在の保健師教育の展開は各大学に任されているため、今後保健師教育を学部教育あるいは大学院で行うなど多様な養成体制が示されると考える。本大学においても、県民や社会、看護職のニーズに対応した大学院教育の在り方の検討が急務となっている。

今回の調査においては、本学部生、看護系短期大学及び専門学校学生の中に大学院における保健師養成課程への進学ニーズがあることが明らかとなった。また、行政

保健職への就職についても、大学院生を採用したいと希望する保健所、市町村が一定数存在し、十分な就職先が見込まれることがわかった。特に、統括的立場にある上位職の保健師は大学院修了生に対する期待が強く、政策提言や研究・調査ができ、リーダーシップをとることのできる人材の育成が望まれていることが明らかになった。

以上の調査結果から、大学院における保健師教育は、愛知県をはじめとする愛知県内の自治体及び東海地域の学生のニーズに合致しており、今後、本学部でも公衆衛生看護学コースの大学院化を進めることには意義があると結論付けられる。

引用文献

- 江藤真紀, 草間朋子. (2010). 大学院修士課程における保健師教育の開始. *保健の科学*, 52(11), 737-742.
- 岸恵美子, 吉岡幸子, 野尻由香. (2010). まず学士課程における保健教育の選択制をどのようにはじめるか. *保健の科学*, 52(11), 747-753.
- 小松万喜子, 平井さよ子, 曾田陽子, 古田加代子, 岡田由香, 高橋弘子, ... 川田智恵子. (2005). 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査 (1). 一本学大学院への進学および修了者雇用に関するニーズの概括一. *愛知県立看護大学紀要*, 11, 69-78.
- 佐伯和子. (2010). 修士課程における保健師教育. *保健の科学*, 52(11), 730-735.
- 日本看護協会出版会 (1991). 看護関係統計資料集 (pp. 38-39). 東京: 日本看護協会出版会.
- 日本看護協会出版会 (2009). 看護関係統計資料集 (pp. 60-61). 東京: 日本看護協会出版会.
- 日本看護協会出版会 (2015). 看護関係統計資料集 (pp. 60-61). 東京: 日本看護協会出版会.
- 古田加代子, 佐久間清美, 白石知子, 秋山さちこ, 興水めぐみ, 久米智美... 川田千恵子. (2005). 愛知県立看護大学の教育改革に関する調査 (2). 一保健師の本学大学院への進学ニーズ一. *愛知県立看護大学紀要*, 11, 79-85.
- 村嶋幸代. (2010). 修士課程における保健師教育の必要性と実際. *保健の科学*, 52(4), 234-240.